ローカル線カ

三陸鉄道

岩手県宮古市

ガンバレ！三鉄「乗ってけろ♪」

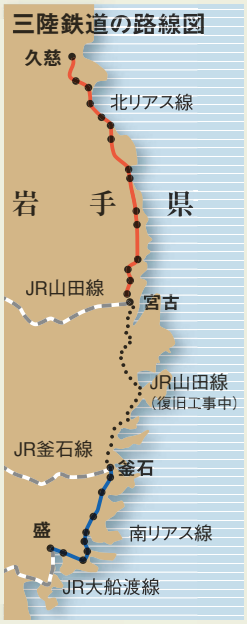
「あまちゃん」では、三陸と東京を結ぶ重要な役割を果たしていた「北鉄」は、復興のシンボルとしての役割も担ういま、明るくたくましく進化し続ける。

三年前の毎朝、NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のゆかいなテーマ音楽のタイトルバックに映し出されていたのは、岩手県のリアス式海岸沿いを走る三陸鉄道（三鉄）の走行シーン。ドラマには「北鉄」の名で登場し、主人公のアキたちがお座敷列車で「潮騒のメモリー」を歌うシーンは、前半のクライマックスともなった。

この「あまちゃん」が大きな宣伝効果を呼び、遠方からもドラマの舞台となった久慈（くじ）駅を訪ねる人や、お座敷列車に乗りに来る人が殺到し、久慈駅の「うに弁当」も大人気に。トリコロールカラーのディーゼル車両が単線の線路を走る風景はかわいらしくもあり、女子の鉄道ファン＝鉄子さんたちの注目も集まった。

北リアス線随一の絶景ポイント、大沢橋梁では、列車の一時停車サービスを行っている。

南リアス線、恋愛のパワースポットとして知られる「恋し浜」に停車中の新型レトロ車両。



三陸鉄道は、東日本大震災の地震と津波で大きな被害を受け、全線が一時不通になったが、震災からわずか5日後には運行可能な区間から運転を再開。その後も徐々に運転区間を延ばし、2014年4月にはついに全線で再開した。震災から一歩一歩蘇ってきた鉄道は復興のシンボルともなり、鉄道ファンはもちろん、そうでない人にも地方ローカル線の底力を知らしめた。

そもそも、この三陸鉄道が開通したのは、国鉄分割民営以前の1984年4月1日。国鉄宮古線、久慈線、盛（さかり）線という赤字だらけの三線を転換し、新線を加えて延伸させ、明治以来の地元の悲願である三陸を縦断する鉄道が全線開通することとなった。

開業から10年間は黒字が続いたが、沿線にあった県立病院が移転したり、少子化が進み通学客が減少、マイカーの普及などにより利用客が減少し、94年から赤字経営となる。

しかしその間にも、三陸鉄道では乗客増加に向けてさまざまな努力を行ってきた。海が見える鉄橋の上で列車を停めて眺めを楽しんでもらったり、お座敷列車で特別料理を出したり、寒い季節にはこたつ列車を企画するなど、三陸に来てリアス線に乗ることが観光の目玉になるようなアイデアを次々と取り入れ、観光客を呼び込んだ。「あまちゃん」放映中も、ドラマで人気となったお座敷列車の運行を即座に始めるなど、何かと瞬発力があるのが、この三陸鉄道の強みだ。

しかし震災から5年が経ち、「あまちゃん」効果も落ち着いたところで、三陸鉄道は新たな局面を迎えている。

三陸鉄道の北リアス線・宮古駅と南リアス線・釜石駅の間をつなぐJR山田線は今も震災から復旧していない。その山田線が復旧したのち、三陸鉄道が北リアス線・南リアス線と一体運営することが決まったのだ。

震災後、注目が集まり観光客は増えたが、沿線人口は減り、山田線も引き受けるとなると三陸鉄道の前途はますます多難だ。しかし、山田線とつながることで、三陸鉄道はまさに三陸を縦断する鉄道へと進化する。直通運転が実現する日、三鉄全線踏破の旅を実現するというのが、女鉄道マニアの修業中である私の現在の夢ともなっている。

（鈴木伸子）

2016年度の「お座敷列車北三陸号」は4～10月まで久慈と宮古間を運行する。

お座敷列車で提供される海鮮弁当3種。手前がうに丼、左がほたて弁当、右がうにあわび弁当。

惜しまれつつも、3月で運行を終えた「さんりくしおかぜ号」（堀内駅）

写真提供：三陸鉄道　（http://www.sanrikutetsudou.com/）